



## 第135号

編集と発行

中部農業改良普及センター

〒904-2155 沖縄県沖縄市美原1丁目6番34号  
(沖縄県中部合同庁舎2階)

電話 098-894-6521

FAX 098-937-2502

## 新たな沖縄県農業士誕生!! ~青年農業士2名、指導農業士1名、女性農業士1名~

沖縄県では、将来の地域農業を担う先進的農業経営者の育成並びに女性の主体的社会参画を促進するため、「青年農業士」、「指導農業士」及び「女性農業士」を認定しています。

令和元年度に認定された農業士は、県全体で19名(青年農業士5名、指導農業士10名、女性農業士4名)です。

下記に、中部地区から誕生した4人の農業士を紹介します。



認定に向けた現地調査(牛舎確認)

### 青年農業士 とうまたいき 富間大樹(うるま市)

ザミアやパキラ、輸入植物など約1,200品目の観葉・鉢物を生産。生育条件に合わせて、ハウス内環境を整えて作物を管理。独自技術で仕立てた植物は、小売店オーナーやバイヤーが直接買い付けに訪れるほど人気が高い。中部地区、沖縄県の農業青年クラブ会長を歴任し、地域農業青年リーダーとして期待されている。

### 青年農業士 とみやまだいきち 富山大吉(うるま市)

草花栽培の親元から経営継承し、観葉や多肉植物を生産。日々の作物管理は実地の経験から得られている。植木市での出店や県外視察を行い、他者と競合しない品目を取り入れるなど経営管理能力も高い。

うるま市農業青年クラブとして学童向けの農業体験や食育を行うなど、組織活動にも積極的である。

### 指導農業士 なかどまりもと き 仲泊元輝(沖縄市)

中部地区でも有数な肉用牛繁殖経営。飼養管理技術に優れ、沖縄市及び沖縄県畜産共進会では繁殖技術が高く評価され多々受賞している。沖縄市認定農業者、農業委員、和牛改良組合沖縄市支部長を努め、周辺農家のリーダー的存在である。

さらに県立農大研修生を受け入れし、若手育成に積極的に取り組んでいる。

### 女性農業士 またよしあや こ 又吉彩子(沖縄市)

平成25年から自身が経営主として食用菊を生産。今年からJAおきなわコザ支店園芸生産部会の会長に就任し、組織リーダーとしての優れた指導性と協調性を兼ね備えている。

地域においては、保育園児や学童を対象とした収穫体験を積極的に行うなど、農業を通じた社会貢献に努めている。

## 中部地区農業青年クラブ 会員募集中

中部地区農業青年クラブは青年農業者の生産技術向上と交流を目的に昭和46年に結成されました。一時期、会員数が減少しましたが、近年は若い青年農業者の加入が増加し、現在、中部地区では45名の会員が加入しています。

### 主な活動

#### I. プロジェクト活動の実施（10万円以内の助成制度あり）

自ら課題を設定し問題解決を図ることで、実践的な農業技術等の向上を目指して実践発表会を開催しています。

#### II. 資質向上研修会

県内外への視察研修や農業に関する知識を深めるための座学研修を行っています。

#### III. 仲間づくり交流会

関係機関と農業青年クラブ員の相互の研鑽と交流を図っています。

#### IV. 地域貢献

農産物即売会（うるま市、宜野湾市、沖縄市産業まつり等）に合わせ、会員が作った農産物を出品しています。



県外研修（長崎）

新規就農相談会出展

仲間づくり交流会

農産物即売会

農業をしている方も、これから農業をしようと思っている方も、私たちと一緒にクラブ活動を通して切磋琢磨しませんか。

会員は随時募集中なので、お気軽にお問い合わせください。

- 入会条件：45歳以下で、中部地区の農業に関わりのある方
- 年会費：2,000円

※ お問い合わせ先：事務局 098-894-6521（中部農業改良普及センター内）

# マンゴーのアルカリ障害対策

新葉が固まっているのに黄緑色のまま。



鉄欠乏の症状です。



このとき、土中では根が減っている。

今年度、中部地区の土壤検診週間ではマンゴー農場の土壤サンプル 98 点を分析しましたが、そのうち 90 点 (92 %) が pH6.6 以上とマンゴーを栽培するには高めの pH でした。

土壤 pH が高いと鉄や亜鉛、ホウ素、マンガン等の微量元素が土中に溶け出しにくくなり、結果的にマンゴー樹に微量元素欠乏の症状が現れやすくなります。

pH が高い土壤でマンゴーを栽培すると、鉄欠乏の症状が現れやすいことが知られています。鉄欠乏の樹では、土中の根が減り、新葉が硬くなっても濃い緑色にならない症状が見られます。

土壤 pH の高い土壤で栽培を行っている場合や上記の様な症状が見られる農場では、アルカリ性の資材 (堆肥も多くはアルカリ性です!) は用いず、酸性の赤土とピートモス (ココピートでも可) を体積比 1 : 1 で混ぜたものを樹周辺の土中に混ぜたり、客土するようにしましょう。

硬くなっても黄緑色のままの葉には、キレート鉄 (1,000倍希釈) を葉裏によくかかる様に葉面散布しましょう (1週間ごとに3回以上散布。柔らかい新芽に葉面散布すると薬害が出る恐れがありますので、必ず葉が固まってから散布すること)。

- ・赤土や赤土+ココピートの株もとへの客土
- ・赤土+ココピートの断根局所施用



図は「マンゴー栽培管理暦 ~沖縄市のマンゴー生産~」より引用。

(農業技術班 高橋 健)

# 施設野菜栽培における病害虫防除のポイント

冬春期の施設野菜栽培において、単収を増やすには、収穫期間を延ばす必要があります。そのためには、病害虫の防除を徹底しましょう。まずは自身の防除方法を振り返ってみませんか？

該当する項目があれば、□に✓を入れてみましょう。

## 葉裏に農薬はしっかりかかっていますか？

- ノズルの向き、薬剤の広がり方を知らない。  
⇒ノズルは「上向き」、薬液は「下から斜め上」に散布です(図1)。
- ノズルの種類、適正な散布圧、水量を知らない。  
⇒ノズルは種類があり、ゴーヤー、インゲン等には「立体栽培」用が適しています。  
⇒高圧の散布は、薬液が葉裏に届いてない可能性があります。  
⇒適正な散布圧での散布が最も効率的です。



図1. 適切な散布方法(上)とノズルの向き(下)

## 施設内に農薬がかかりにくい場所はありませんか？

- つるや葉が重なっている部分がある(図2)。
- 吊り棚につるや葉がかかっている(図2)。
- 通路に雑草がある。
- 手の届きにくい部分までネットをあげて栽培している。  
⇒上記の部分は、散布ムラになりやすいです。
- 摘葉、整枝が遅れ気味(または不十分)  
⇒葉やつるが混み合うと、通気性が悪くなり、病気が発生しやすくなります。



図2. 野菜吊り付近の繁茂(ゴーヤー)

## 病害虫がほ場外から進入してきていませんか？

- ビニール、ネットが破れている(補修ができていない)。
- 入り口が開いている(入り口ネットを敷設していない)。
- ほ場周辺に雑草が繁茂している。  
⇒雑草は病害虫の発生源です(図3)。注意しましょう。



図3. ハウス側の雑草に生息する害虫類

## 散布時期はおくれていますか？

- 日頃から、葉裏等を観察し病害虫の発生を確認していない。  
⇒害虫を観察することで、薬剤の選択、散布タイミングが把握できます。  
⇒スマートフォンをお持ちの方は、100円ショップのクリップレンズ(マクロ)(図4)をつけると観察できます。
- 病害虫を見つけても、すぐに農薬散布できない。  
⇒発生初期に農薬を散布する事が最も効果的です。  
散布が遅れると急速にまん延します。



図4. クリップレンズ(マクロ)

項目が多いほど、病害虫が発生しやすく、防除しにくい環境にあります。


1つ1つ改善し、長期栽培、単収向上を目指しましょう。

(農業技術班 崎山 澄寿)

# トルコギキョウに発生する病気に気をつけましょう！

県内のトルコギキョウ栽培において、発生しやすい病気を紹介します。病気が広がらないよう、温湿度管理に気をつけ、病気になった葉及び株のほ場外への持ち出しや薬剤散布などの対策を行って下さい。また、立枯れ症状の株が年々増加傾向にある場合は、次作の定植前に土壌消毒などの対策をご検討下さい。


**菌核病**



- ・低温多湿条件で発生しやすい。
- ・地際部の茎や茎の途中に発生し、白色の綿毛状の菌が見られる。
- ・症状が進むとネズミの糞状の黒い塊（菌核）が形成される。

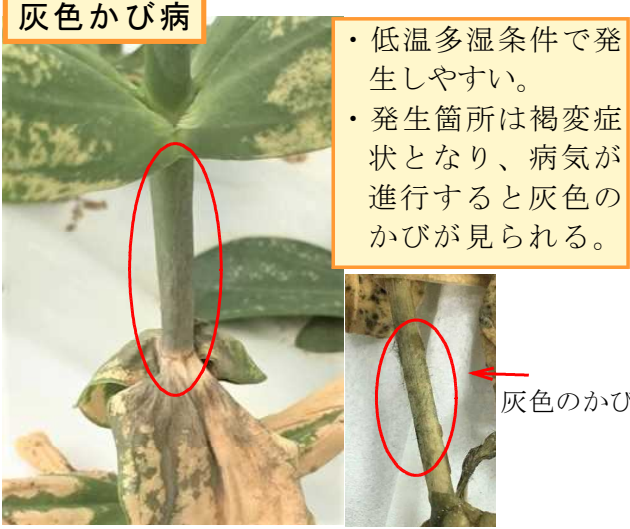
糞状の黒い塊（菌核）

**立枯病**



圃場内で部分的に病害株が見られる。茎葉が萎ちようし、株は枯死する。根も腐敗し、茎を切断すると導管が褐変している。

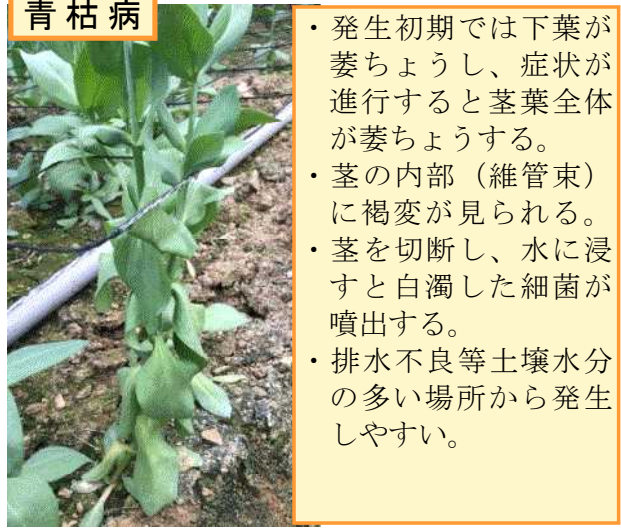
**灰色かび病**



- ・低温多湿条件で発生しやすい。
- ・発生箇所は褐変症状となり、病気が進行すると灰色のかびが見られる。

灰色のかび

**青枯病**



- ・発生初期では下葉が萎ちようし、症状が進行すると茎葉全体が萎ちようする。
- ・茎の内部（維管束）に褐変が見られる。
- ・茎を切断し、水に浸すと白濁した細菌が噴出する。
- ・排水不良等土壌水分の多い場所から発生しやすい。

**ネコブセンチュウ**



根に多数のコブが形成され、生育が抑制される。連作すると発生しやすい。

**斑点病**



発生初期は退葉斑を生じ、後に灰色の斑点となる。多湿条件で、下位葉から発生しやすい。

( 農業技術班 野原 正司 )

# 令和元年 秋の農作業安全確認運動

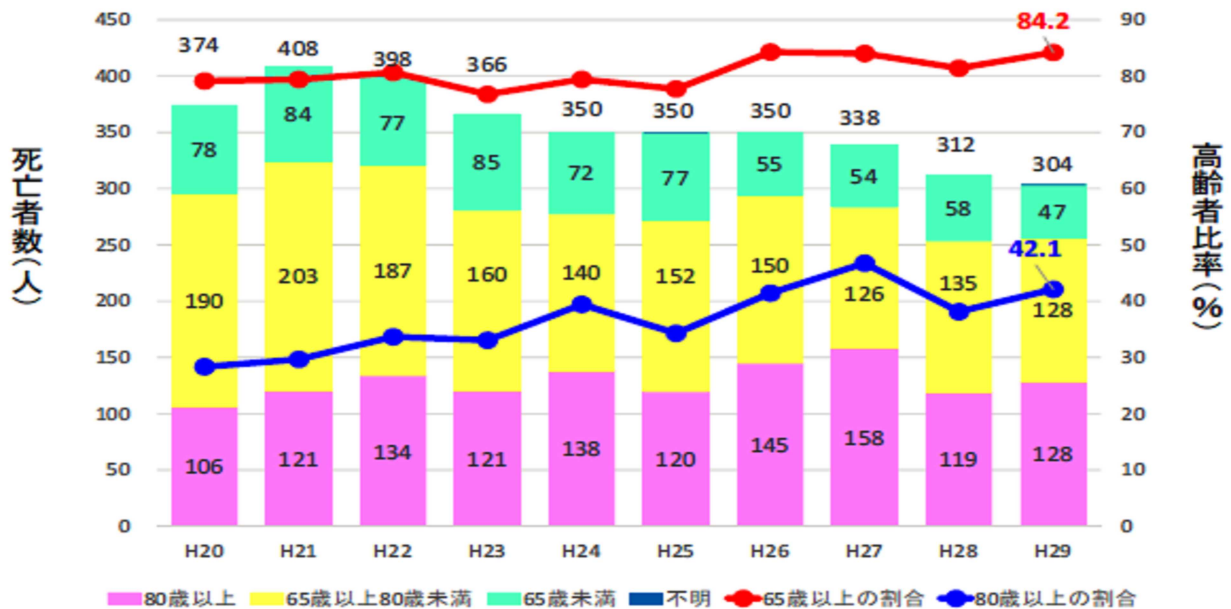
## ～まずはワンチェック、ワンアクションで農作業安全～

農業就業人口が減少する中、国内では毎年約300人以上が農作業事故により亡くなっています。そのうち、トラクターなどの農業機械作業に係る死亡事故が約69.4%、農業用施設作業に係る死亡事故が約4.3%、火災や熱中症などその他の死亡事故が約26.3%となっています。年齢階層別にみると65歳以上の割合が84.2%となっています。

令和元年の運動については、GAP(農業生産工程管理)の周知を通じた現場の改善活動、農業者への安全確保の声かけ・注意喚起等の農作業事故防止対策の取組を推進します。

①農作業に適した服装で、②農業機械や農作業圃場の始業前点検を行い、危険物の除去または危険箇所を把握し、③作業中の農業機械の調整はエンジンを停止して実施し、④ゆとりを持った作業計画を立て、⑤十分な休養をとって、農作業に臨んでください。

### 農作業死亡事故の発生状況

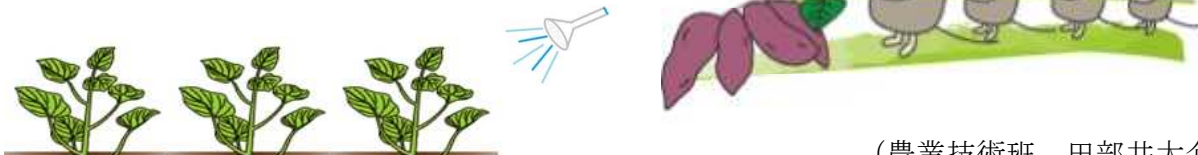


(農水省調べ)

## 11(いい)月16(いも)日は「いもの日」

### ♪令和元年度「いもの日」行事♪

- (目的) 県産かんしょの生産振興と消費拡大。  
生産者の意識高揚と消費者のかんしょに対する親しみや愛着をより深める。
- (日時) 令和元年11月18日(月) 9時～
- (場所) 読谷村文化センター鳳ホール(読谷村字座喜味2901)
- (内容) パネル展示・加工物産のデモ販売・いもの日関連講演会等を予定しています。  
今年は東アジア唐芋友好ワークショップも同会場で開催されます。
- (問合せ先) 沖縄県かんしょ生産振興協議会  
(沖縄県農林水産部糖業農産課内)  
TEL.098-866-2275



(農業技術班 田部井大介)